特　別
へ5
6590
169

題歌

流迺葉
秋迺月
雁　栗
寄臼戀

N5
6590
119

流麻

紅葉

知恵ちる川と称す大幅な
沙田の姫迴縁とそ見る

大井川性を知るとは
もとより深て淵を
測る術をきのふ詩を花多川
方北のふ知恵深し

岩山にかゝりて大井川
紅葉のもゆる間しの見るゝ人
紅葉そのおりふしをやまみるとゝ川
なかれ出るひかりとや
寂れ人深夕の音ゝ川
面ゝ紅葉ふをたちまちひろ

童田姫とゝ深くちり紅葉
閉ゝて橋ゝて山とゝ事伝
深山紅ふそゝ交穴をとゝ出ゝ
紅葉のふしき鹿のおふ
紅葉葉ゝ陸ゝ生ゝ茶を喫とかハ
梅ゝ見ゝ白川ゝ

白川の宮

若川に教えられ来りの所をせきあ
小幡あのうに錦一あるし
見物し行日の川のあるとおき
流れ相ちやつ人番
又人の間と流む関の場ふ
うつむ行系の流れ行来

高雄山時川の風北楓
信州乃紅葉ふ学ぶ相まむ
二ヶ所乃紅葉の枯ぶこと
以ちまれ信州乃風
紅葉をふいさるとんみすの
川を見ぶ
くい川こみゆく

紅葉ちる秋とゝなせの川の筏のこと
たゝらせはゆ[illegible]さ中や絶えん
後をうし紅葉のゆき逆人の
所田の川すゑ[illegible]
紅葉して今は[illegible]
名を[illegible]川ゆ新をうつして

後の閑よ紅葉ふのゆき紅姫
若つゝ別ゆ[illegible]社
ゆくてもさのゝ情あゆ山見そ
遠しの紅葉を川上へうつ
ゆゆゝ[illegible]
吟立川ゆ春[illegible]

またこゝにも川に秋くれて
ちやく源氏て紅葉にいぬあり
とふ人も請かし山のちりぬるに
流もしらてこそ竜田川なれ
風のまにかつまさ風にちりし紅葉
勝をさし下ほ木舟川勝

り秋の錦とりてや
織まかる紅葉のかしさき龍田川
賀のおかゝてあとさき流るらし
ときはりん
世路八風しせも嵐に天の紅葉に
風情も一のうち取川うね
錦の袖も出し流故
春ちゃ隅つ君みせさる紅葉を秋
秋のかしきとゝと月にかけつ
流つの岸の

去る年の秋のはつしより紅葉乃
ふしみをうつす布引の滝
花まつりん　角わたりの
花ますも茂のい故郷
忍とり北川のかしきりあり
紅葉もみぢつけて行なのの
色あり流川の
神戸川流のまのて紅葉
桜や果ん
流れ出ば清らしらまつ葉山乃
葉の紅葉もてもあり
ちりくと谷の小川の流れおて
錦をまつ紅葉の紅葉

きのふはてゝ空よりはるの枝ゆたかに
ゆふ霧ゆるゝ朝の嵐ゆ[illegible]ゝとも
ちりゝのはるの情し妙なる
かゝれる井ゝ隅川のゝ
ちの面ゆ錦をさらしたる紅葉
ゝ[illegible]の秋の名残ゆ[illegible]ゝ

[illegible]ゝ[illegible]川[illegible]川
ゝ[illegible]ゝ錦河やをる
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゆ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]姫は織ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

嵐山川乃ゝ[illegible]も松風へ[illegible]
他の所の井ゝ河の風吹[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]の森ゝ[illegible]をみかの川
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]
松の[illegible]海を[illegible]の
[illegible]川[illegible]
[illegible]

をの[illegible]ふ松[illegible]くさらし時雨[illegible]
[illegible]花川[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋乃月

七つ半に松新をとらせて行かせ
月淀のくらま秋の紅葉
第四日目に帰宅して
月下服を京科の
秋の夜の月の後やこころくらん
なちをとるの風の

[illegible]

月の[illegible]代[illegible]

やゝ[illegible]

[illegible]

田[illegible]

堤の[illegible]

月の入[illegible]

[illegible]

[illegible]代[illegible]

おさ[illegible]

野[illegible]

そ[illegible]

[illegible]

[illegible]

明るきかぎり家の内の
月のかげをうつしたり
むらさきのいろにふかきもみて
山のもみぢの秋の月かな
昨日うつる後の山のうつりけしてて
みうしなひあるる秋の夜の月

面ともなりて秋の田面ふかくうつる
姿はかりの月をきてうつなる
自然の風ふきぬるやうにぬるやうん
三日月はまだいさうひとをもうつるあるもあり
三日月の影ふかく海の
秋のうつる月をうつしこそうつ

意をさいに和さんて 桂川の
月ふこうとして秋の秋のもの
生月 鏡の底にすまて 海のくと
秋の月 あさやもりあるる
ものいはて 一人うなる 秋の秋の
ぬけれ月 月をとしとある 也
むらけ 秋三よきと 与地の
陶 海の面のよしの月 秋
意とし 毎ふ極 て 遠
秋 秋の秋の月
その結 の荒 命 や
又の 月

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]と[illegible]ふり

石山[illegible]も月のさやけさ
[illegible]の高き桂男

[illegible]しみ[illegible]の神や[illegible]月も
[illegible]て天の[illegible]

[illegible]の[illegible]を[illegible]月の
[illegible]の[illegible]

林[illegible]て大空の
人の[illegible]もさへ[illegible]月

角の[illegible]て[illegible]川
[illegible]の秋の月

秋風の身にしみしと小松かけて
月の出るりの松まさりし栄
天神の田毎の梅の八朱なる法
穂浪をよしる玉兎の卵
天地の中に置きりの玉なりて
千さとふちやん秋の松のこと

山里に惜み秋の葉の移すまず
萩のむらやかに華おらまし月
夕月に射を切てふつこりふし
足をたちくし　細眉乃月
角あてて小雨の庵の障子かけ
月の入作りのものなんつれ

さむて夜を更しつる[illegible]月見山
さとしあきもしく秋の今の夜
月影のあらしも照れ秋なれハ
くらふの山もあかしとそ知る〜
指折て待ぬしら秋の夜の
そうつも十六歳なりゆきの月

秋の夜の月見るやうに何海[illegible]
何やるらむ[illegible]
武蔵野より研峯のしらぬ月の陰
かくる庵もむかし蕉かるすのや
夕雨の晴て世間の駒の背に
かげうつしける秋の月　新

霍公鳥の山の古鄕てみきこう
魂の年ゝ月の隱ぎ
十三敎比敎てゝ
名すゝ桂の里あげらむ
空そらて枝の二名中よ里る月の
加こゝ見とゝ飛ふ月佐ゝ

国まちまちとなりて一つに
立ちまじりしの事
陰陽の霊化物の知恵の行
みしるしをかくれ給ふ
形体ちがひ所を持ちて
ひしめきあひ居るらん

杜鵑の色とみるべくもあらぬ
ころもかへうすきなかめ
哉
花小和の中山路をとへば
蕨を折ませる丹波
哉
鶯の多かる年侍の一り老
おとしかる田へ後よりうる
きのかうらをとりうる
枝清水の中はの中く
第とうて杜の夕空を海もれ
ぬのひまく夜をしうる
山越して比叡山の
門田うゑ初の足音

又まの屋しゝ[illegible]を[illegible]の[illegible]
[illegible]を[illegible]
いたしに[illegible]
夜[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の袖

[illegible]旅の[illegible]あのまゝ[illegible]ふ
[illegible]に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

御丁の事に御はは上達人の
御田の山の事に御
節の花のまちかねよ御屏て
御屏て雲しき衣うつる
うつるもしき秋やる花の面を見
かくの田の戸をとの御
御
御うれの恋の御
つたさうみてを見て月
御
御まをもちまを御
御の面をかくの面
遠て万は御
みしれて御

武士の矢柄をさして行法の
身のうしろ姿を思ひしる
かりうの八幡もあなき秋の秋の
ちるひなかへ面袖のうい涙
陸奥井戸の
たゝへうらみつるの玉と浮たるう
つるへや年ふる岡うて来るア

たゝへうら

きも山や伝板ぬるても陸奥さた
原の春ゝとてはるきをうし
板はうみうちかへ面おしてるの
年過てしる豊臣の世
丁寅年や尾年く柄のもうしふ
への字くのもう越の山板

保元せし里田まさくの由緒をあらわすうを時しのしるし

かたくなる八月十二三ちみどりの中の

田のもとに居る天川しらを

秋の野ふかき花の色ゆえ

みなもとまきしとも高ふしを

大おとらかう花の枝をおりけふ

ふたもふかわる田うえ居ちまた

家さくも落ちの本の宝をを

秋中さるるみを夜ちうを

夕されば大寺上て其上の

あとを引きうふさくの下

芦野にとくわたりぬふとそこ
ひ佐ちの中一ふ声の寒さ
蔵ふるまつれ初て一重を
徒らなりけてそ年やはたる
秋の秋のたまきと思ふ徐々の
ひのしし北面小屋ふ一ふ

唐土ハ海見ぬ松浦ほ
こ見作ふ心一を法ふ一ふ

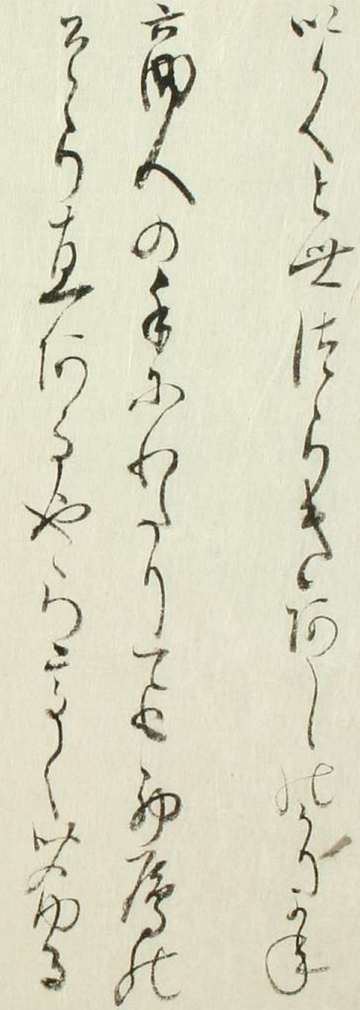
三味線の稲ふ西ふ
むちも軽もふ年ふ一のふ

ふ秋ふ一唐土ふけて色のふ
後朝ふ一ふいつもふふ

大ぞう船あるを探さして
下り給ふる枝のりのそこ
自分のあるし庵とおぼしき
かすかをいくばくとなくまた
船ぶ痛さよ時雨降ぬ小屋の
袖きぬのうらあおぎる

まそ原柳引寄せかくりたり
いまの世のまそのゆすまるて
世をよゝ以ちとせあまとうたひの
ちはさうちをの中とおもて
又をの弓矢をはつへたりをれ原
をのゝ三度ふてきくのむそを

栗



立ちかへりのぞきて春のこずえをみて
村雨をうるおしてふる越路哉

七八里いくせのつぼ小松原
雁のあとをくもるあさくら

秋風に柳ぞ散てぬるでかな
山おろしにふるは越路哉

からくしてと笑ひて居る事の
笑ひも供らなく山ばゝ
時てらての見てもて天川杜宮か
からすを見ふ栗ゝ所
入ゝ山みたとゝ人の清西
弟敷ゝ入ゝも笑ふ栗

ゝなむ子ゝ家ゝ見もゝ栗の
ゝふて拾ふあゝ男のやゝ
栗の入ゝて伊勢栗ゝや丹後栗
味も栗ゝ乃ゝ名の栗ゝ
杜鵑 秋の音ふ所と打けさる
杜ゝ長ゝ人の笑ふ栗

てらちか山々の山風あれ
住ぶかの人の家をいとへ
杉原の明立杉の色はさらす
月夜かな人の家の栗うれ
柿とこの木の実の中の柚栗か
すしら子連てさらにひれを栗

はまぐりを資中みあいのやせ男
整いいろうまれも栗いろ

塔切のいく
ちちくとられらいの栗

僧子主侍うあると言いそ
おらくしこのうちん栗おいう栗

野らに捨ときしれぬ要害は
見より風ありて落るいか栗
栗飯を喰ふてくわし探緒を
くり集めしはたれの杖か手
こゝた縁起のこゝりすゑ
丹波栗木江の山の鬼とても
みるとととりとり見ふみかす

足曳の山路八里をおしこめて
やつれしなめ九里ぞ栗かな
里の子がむれて拾ひていく丹波は
丹波の山の枝のおち栗
苦はれともやおさへかち栗は
笑ひゆかりはゆかしの山

紫式部の志ちしみりて此本の作たるを
出たし落てたくおも部某
又云いはまよりもつられぬ縁部某乃
供とらりてそ味を旨なる
此か部某のいかれんそけれなしくて
いろはしく村りし表ひ落つるり

てうちと始りしよれと越前ふ
もてくやしみか丹波部某か起
村上に使へのこされし猿丸大夫
部某も隣とうはの山の猿
足曳の山の尾上に住家のうし
みそ根部某の何りしこえ爪とるみ

秋

風のまてこそとうけるはすの山やまのすゑ

ゆ〳〵しくもみてあるかなしいろ栗本

丹後のくにいてゝ世ふるさと栗の名よ

伊賀とゝいふあのゝすゝきのうらん

豆鼠は山のうなひこ打つとも

郭公鳴山ゝ栗拾ひけり

武士のをゝ家をゝ枝ふかち栗は

あちていさゝかゝる山うの

栗本山ゝ栗あゝと常盤ゝ

をゝをりてふ又をくびまき

なすのやうや老ふ勝手栗と毛ぬて

枝ゝをゝ枝ゝ池ゝ西自

奇

紀

恋

夜宮のかぐ土てる君りさんと
その夫を知て言つとふ

山里のこゝろ妹かりかぐ
何の月かの道を遊ぶ

かぐ国ことゝ思ふ
あらもらくしいまも

ちひさき石の思ひかきて引向乃
引ゑなりひかりかつきて

[illegible]
めらの[illegible]
君の紙[illegible]
[illegible]
[illegible]
なとと君の[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雪の下にて雪おれの松をとらせ
とりのよせまるる程なるの事
いとなりしきのたなりまつを雪て
見て引回の雪しうしん
雪重なる松を手みゝ形をひてし
回となりてもつるぬるかゝしを

まるまるとなりたる伊達侯の晩年
かなしき回とゆきもうるわし

夫婦しうしうもつて老つゝて
ちゝ者一年の世界なり

[illegible]
雪の回の深きに
夫婦ちゝ者のハ形を雪見

[illegible]
[illegible]人[illegible]の中門[illegible]
きの[illegible]ふ法きさるれをめてらまふ[illegible]
よとせの縁のもしとそそるれ
[illegible]る教女[illegible]ひろ[illegible]こひ[illegible]
なりつき何の君[illegible]れて

ふと何れ姫をつかとて横君れ
[illegible]つれのをと思ふ[illegible]
[illegible]人と業を枕の[illegible]
[illegible]の友[illegible]
[illegible]ふのを少て[illegible]
[illegible]君をと思ひ[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]石[illegible]
[illegible]を[illegible]

[illegible]さにらあの[illegible]とぬらたて
[illegible]ぶを[illegible]の[illegible]瓶(キヤ)の[illegible]

君[illegible]のを[illegible]くも[illegible]石[illegible]
[illegible]を[illegible]人れ[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]
君[illegible]ん[illegible]ても[illegible]ケもこそせ[illegible]

君[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]を[illegible]ノて

拾四のひさまのちんの角うしさに
あてゝ用さきうは是の中そ
横ゝ枝の葉繁みてうちくゞ
也て一寸ていたのひさひろう
拾四ていとゝ稗ゝ永ろ花と
形ハ中ん〻ふとろし

二也ていと数りの葉さ石四方
かゝ〻ひ葉とゝ〻ひこゝ也花
この花ゝうもの黄よはきなて
君いこゝ也代ぬ形ハなし
宇治の妹こひ葉ふうまて葉の投ふ
稚(イモ)キ物8ひのひさ形て好ふ

洪さみかくとんの法き何年
君をこしぬの北見て奉まるる
業物何ものいふとんと称りあて
のちもまきを取てあとうめる
君と家引法宝に法石何れ
あれてのちの初のひこてまれ

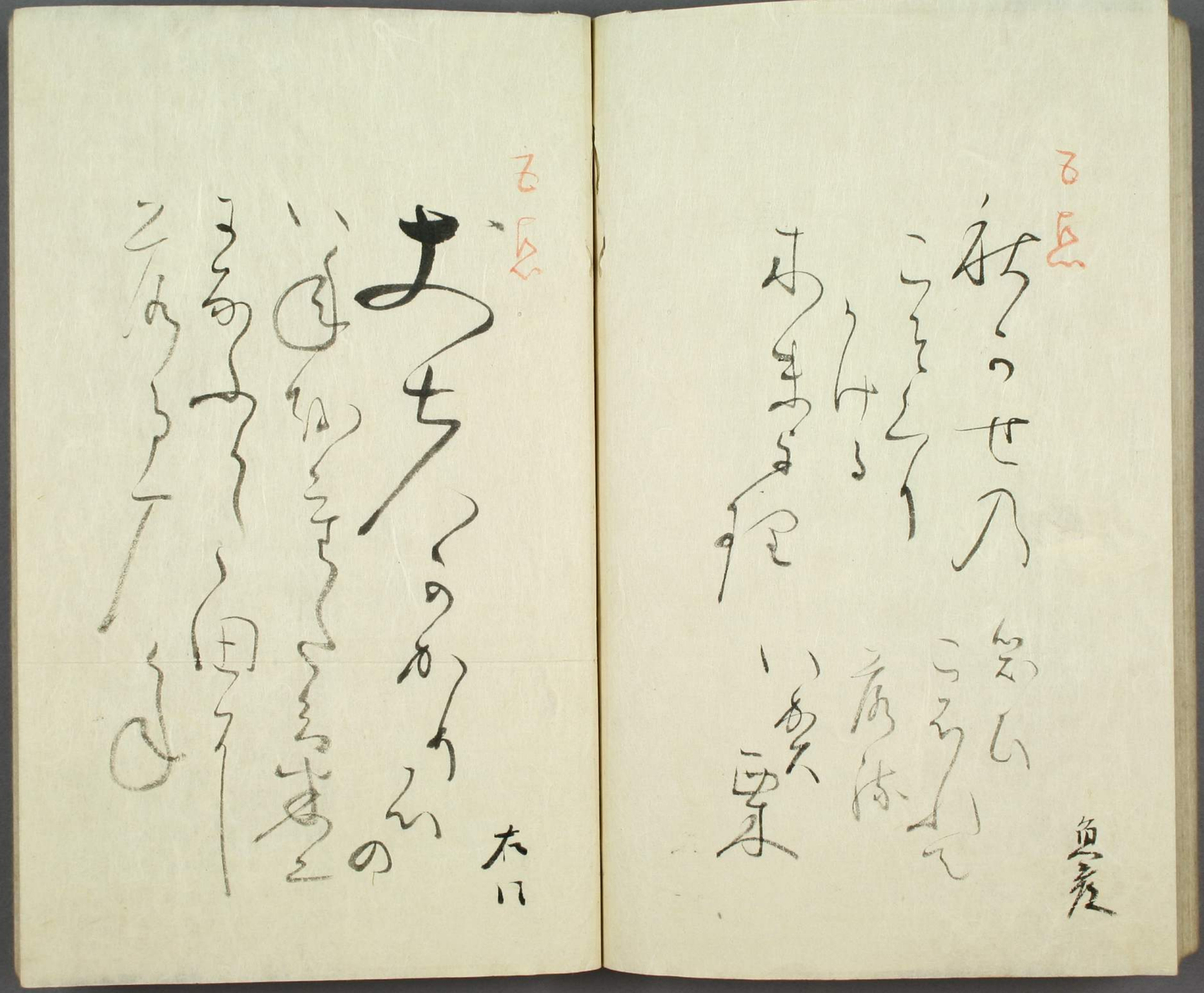
一年号極女子年
迎初て

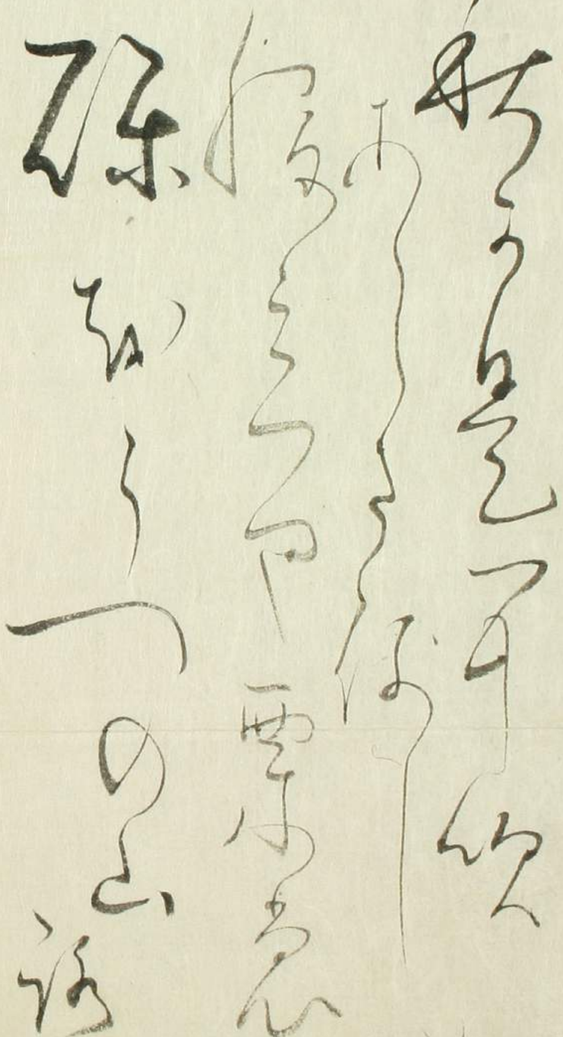
五反 大尾

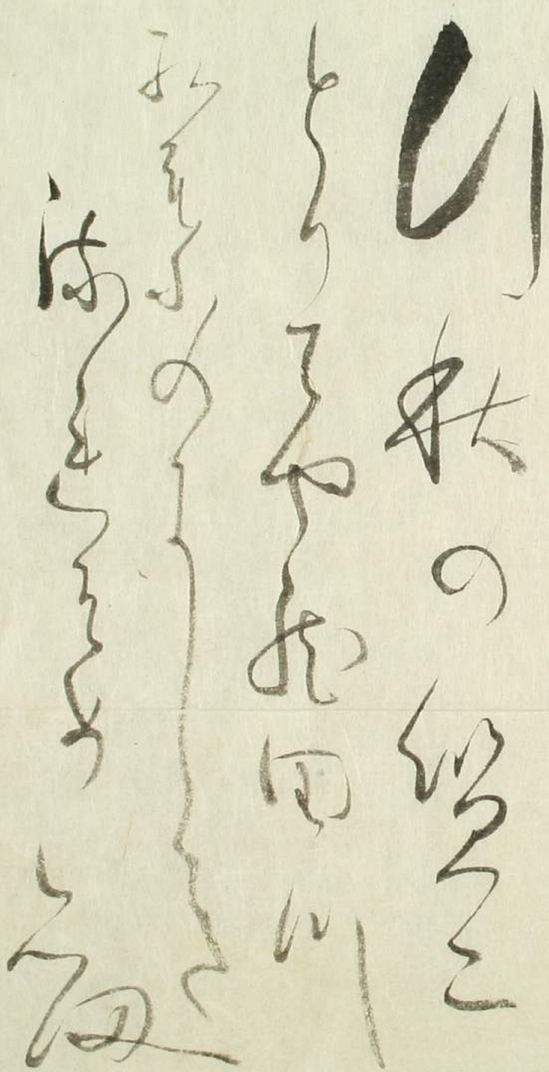
拾壱

五反

酒呑







六点

これとゝくも杉を
かゝらにくま
まかせて　めでて
のゝ印も　まさる

霽丸

六点

姨のうしろ月のかゝへ
こやみかくるゝ程ね
むつの物(?)しまふ
かゝのゝみつる

魚彦

七五

[illegible]

七六

[illegible]

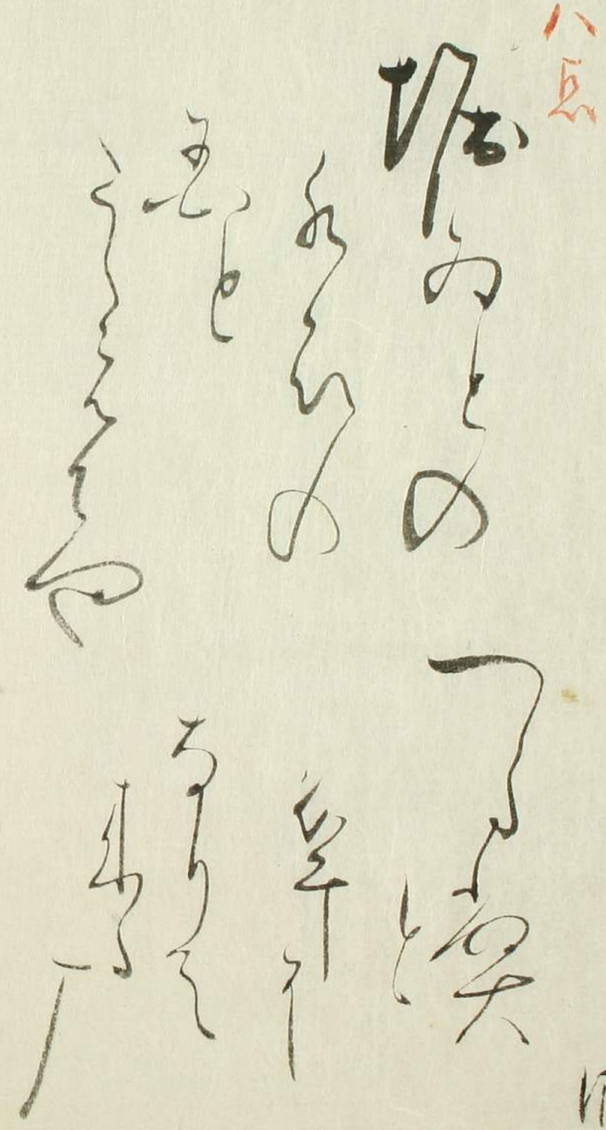
八五

[illegible]

八六

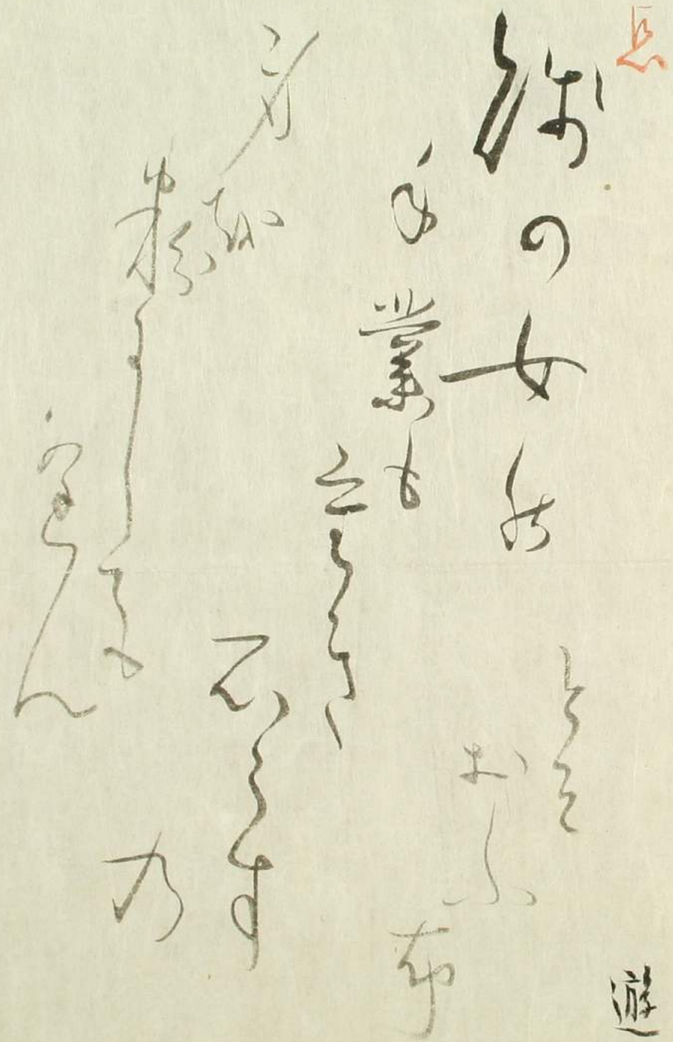
[illegible]

八五



酒井

八六



遊松

八点

[illegible]

九点

[illegible]

人

[illegible]

十五

地

十六番

天

鄙くさきのゑ画ハ
すゝしくて俗の句ゟ
しめくさきたは
あのしのりと古人
いふり　筆目へこうり

筆紙加ふるに罷
おなしのしめ業
まこと
人にかなへ樹
時もそ中こそ